



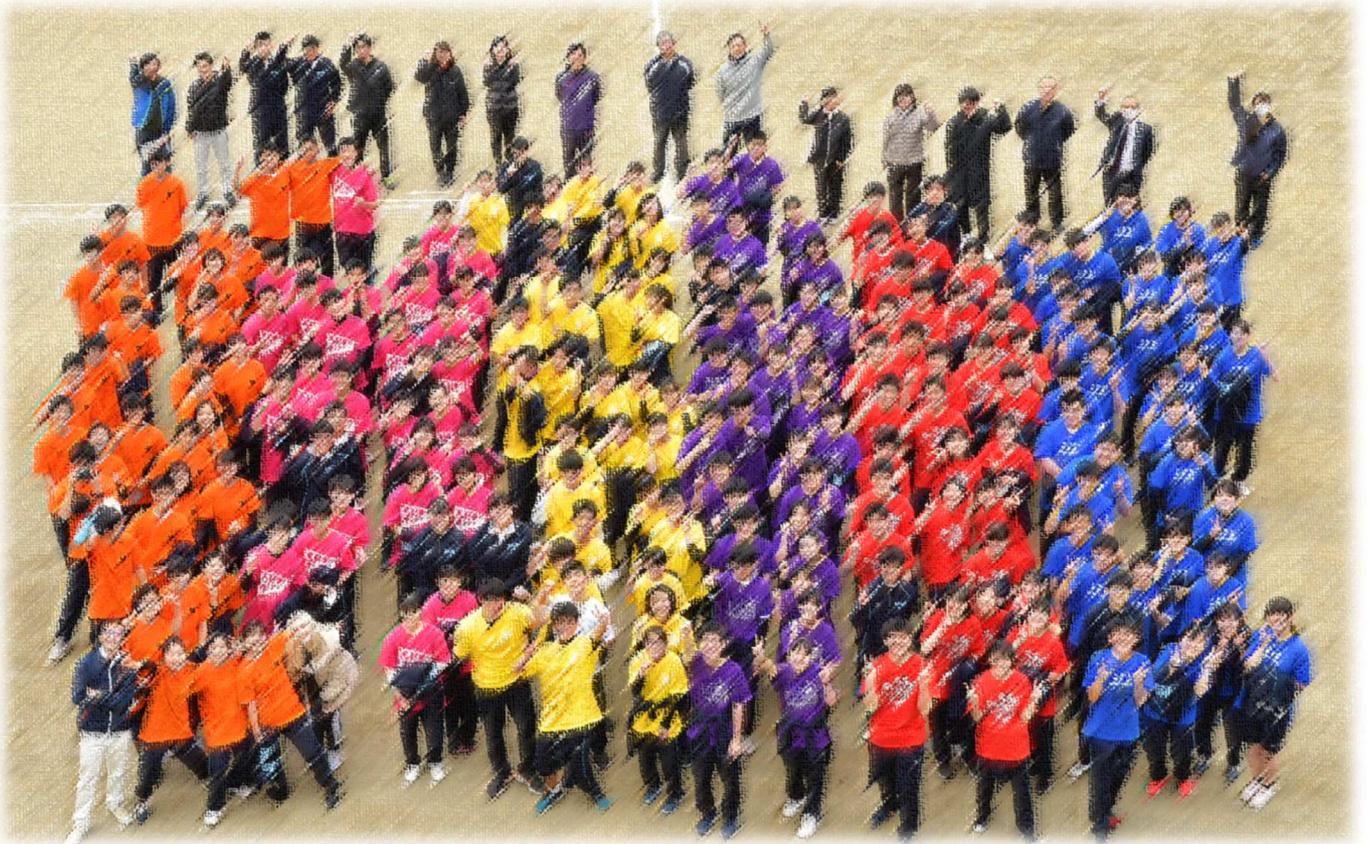
## 「西高劇場～第1幕～千秋楽となりました」

校門の桜も8分咲きとなり季節はもうすっかり春ですね。1年次のみなさん、先日の球技大会はどうでしたか？ クラス対抗のキックベースとバレーボール。この日だけ少し寒かったですが、すべての種目が男女混合チームでしたので本当にみんな楽しそうでした。「あれ？こんな一面もあったんだ」なんて同じクラスの仲間でも、また違うクラスの知らなかった西高生の新発見もあったのではないのでしょうか。

思い起こせば1年前。予定されていた入学式は延期から中止へ、約2カ月の休校期間の後、分散登校を経て全員そろっての授業開始は7月でした。新しい仲間ではできましたか？ 勉強や課題、部活動にも自分なりに取り組みましたか？ もちろん悩んだことや思い通りに出来なかったこともあると思います。それでも、初めての西高生活は楽しかったですか？

昨年末の年次集会で先生も言いましたが、「何のために西高へ来たのか？」1年生としては最終日の今日、もう一度自分自身に問いかけてみてください。先週ふたつの進路講演会もありました。勉強はもちろん自分自身を進化(深化)させるための振り返り。進路実現に向けて覚悟を持つ。このふたつが2年次のスタートに向けてのみんなの春休みの課題です。先生は4月から一緒に化学の授業できるのが楽しみです。さあ西高劇場～第2幕～主演はあなた自身です。開演まで2週間、4月最初の年次集会で、少し成長した皆さんに会えることを期待しています。

年次主任 三井恒弘



## 保護者の皆様へ

保護者の皆様におかれましては、1年間、本校の学校運営や年次経営につきまして、多大な御支援と御協力を賜り、あらためて御礼を申し上げます。昨年4月新型コロナウイルスの感染拡大より入学式が中止となり、その後約2カ月の休校期間は、高校入学での新しい仲間との出会いだけでなく新しい環境に慣れていく場所も時間も奪いました。その時のストレスは少なからず今の生活にも影響が残っていると感じています。しかし、先日の球技大会ではマスク越しでしたが多くの生徒の笑顔を見ることができ、進路講演会においても真剣に講師の話を聞く姿から、この一年間で生徒たちは外見だけでなく、行動や言葉にも西高生になったなあと感じています。この生徒たちと出会えたことは、私たち教員にとっても大きな喜びです。人事異動や校内人事により多少のスタッフの変化もあるとは思いますが、次年度も全力で生徒ならびに御家庭に寄り添って支援していきますので、今後もよろしく願いいたします。

◎先生方からの寄稿 今月は6組の担任 志村 かおり 先生 と 副担任 平井 茂樹 先生です。

### 「春に寄せて」

桜の花も咲き始め、いよいよ春の訪れを感じます。桜の花は昔より多くの人に歌にも詠まれてきました。その中で印象に残っているのが、在原業平が伊勢物語の中で詠んだ歌です。「世の中に 絶えて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし」（この世の中に、全く桜というものがなかったなら、春を過ごす人の心はどんなにのどかであることでしょうか。）

私にとっても春は心穏やかでない季節です。新年度を迎えるというわくわくする気持ちもちろんあるのですが、人見知りと口べたな私にとってせつかく親しくなれた人と別れて新しい生活が始まることは、果たしてやっていけるのだろうかという不安になる季節でもあります。

そのような時に桜の花が咲くことは、私にとって本当に安らぎと励ましになります。私は祖父・母の影響で小さなころから植物に触れる機会が多かったためか、植物がとても好きです。そして数ある植物や花の中でも特に桜が好きです。しかし、桜の咲いている時期はほんの1週間くらいしかありません。そのため、私は桜が咲き始めると、桜の花を少しでも多く見たい、少しでも近くで見たい、少しでも匂いをかぎたいという気持ちで忙しくなります。そしていつも繊細な花びらやかおりと共に、この短い間しか咲かない花の力強さに、沈みがちな私の気持ちが鼓舞されるのを感じます。桜の花がこの時期に咲いていなければ私の心はもっと千々に乱れていたと思います。私にとって桜の花はなくてはならないものです。つまり、「世の中に 桜の花のあればこそ 憂き世の春ものどかなりけれ」（文法等の間違ひがありましたらすいません）なのです。



皆さんも、ちょっと外へ出て、桜の花を見てみませんか。そして春の訪れを感じながら、自分自身と向き合い、4月からの新しい生活や出会いに思いをはせてみましょう。

6組担任 志村 かおり



### 『ありがとう』という言葉

みなさん、日頃の生活はどうか。4月初旬は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため緊急事態宣言が発出され、その影響で行事の削減など様々な対応を余儀なくされた時、どのような感想を持ちましたか？先日、通勤途中のラジオで「ありがとう」という言葉について語られていました。とても興味深い話だったので紹介したいと思います。



『ありがとう』という言葉は『有り難し』という言葉から生まれたといわれています。“有るのが難しい”と書くところから、『有り難し』には『めったにない』、『奇跡』といった意味があり、『有り難し』という言葉は、仏教に由来しているとされているようです。仏教の教えでは『私たちが日常で“当たり前”と思っていることも実は有り難い、まれなことで、そこに感謝することが大切です』と説明されています。『限りないたくさんのご縁が結ばれて、今のこの瞬間を迎えることができました』という感謝や喜びの言葉が『ありがとう』だそうです。一方、『ありがとう』の反対語は『当たり前』。『太陽が沈んだら、お月さまが昇ってくるのは当たり前』など、この世にはたくさんの『当たり前』であふれています。でも、『当たり前』と思っているすべてが、実は『めったにない、有り難いこと』で、そこになかなか感謝の目を向けられていないのですね。また『ありがとう』という言葉で心を込めて言い続けるようとしていると努力していると願いは叶いやすいといわれています。

『ありがとう』や『感謝します』という言葉は自分を変え、ツキを呼び込む魔法の言葉“であり、言葉に発することで少しずつ見える景色が変わって、人間関係が良くなったり、仕事が上手くいったりするはず

です。（ニッポン放送 「羽田美智子のいってらっしゃい」より抜粋）

今年、1年間を振り返って、いろいろなことが起きましたが、何とか一年間を過ごすことが出来ました。皆さんとともに一年間を過ごせたことにありがとう。？

6組副担任 平井 茂樹